

国立国語研究所学術情報リポジトリ

漢語連体形とその周辺：辞書記述の精密化に向けて

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国立国語研究所 公開日: 2024-11-13 キーワード (Ja): 二字漢語, 連体形, 「的」, 「性」, サ変動詞 キーワード (En): two-letter chinese-origin words, noun-modifying position, teki, sei, chinese-origin verb 作成者: 庵, 功雄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/0002000388

漢語連体形とその周辺 —辞書記述の精密化に向けて—

庵 功雄（一橋大学国際教育交流センター）[†]

Notes on some lexico-syntactic properties of Chinese-origin words in their noun-modifying position and some related issues: Toward the elaboration of the description in dictionaries

Isao Iori (Hitotsubashi University)

要旨

本発表では、二字漢語が連体形で用いられる場合の統語的、語彙的特徴について、BCCWJのデータをもとに考察した。考察の結果、統語的位置（機能）の違いによる興味深い現象がいくつか観察された。本発表の成果は今後の日本語学習者向けの辞書記述における統語的特徴に関する記述の精緻化に貢献するものである。

1. はじめに

日本語学習者（以下、学習者）向けの辞書記述においては、意味的情報だけでなく、統語的情報も必要である。例えば、漢語が連体修飾で使われる際の最も基本的な形は（1）（2）のようなナ形容詞の連体形であるが、（3）（4）では「～な」は使えず、異なるサ変動詞の連体形を使わなければならない。こうした情報は現行の国語辞典には載っていないが、学習者が適切な日本語文を書くためには必要不可欠なものである。

- （1）ところ狭しと貴重な資料が並んでいる。（PM21_00239）
- （2）家を支えるもっとも重要な個所は基礎ですよね。（PB35_00013）
- （3）国益の面でも、日本は資源がないだけに、世界とともに繁栄する（*繁栄な）道を選ばざるを得ない。（PN4e_00010）
- （4）また全体協議では米朝間での緊迫した（*緊迫な）応酬もあったもようで初日協議では進展の予兆はまだみえていない。（PN4d_00004）

本発表では、BCCWJのデータをもとに、こうした漢語による連体修飾に関する問題を考える。なお、本発表では考察対象を二字漢語に限定する。

2. 「な」と「の」：基本的連体形

前節で見たように、漢語の連体修飾の基本はナ形容詞の連体形である「～な」だが、連体修飾一般で言えば、「～の」も重要である。

2.1 「な」：漢語連体形の基本形

「な」の頻度上位20位は表1の通りである¹。表1では、これらの名詞形として、「性」と「さ」のいずれを取るかを合わせて示している。表1の赤字は粗頻度²100を越えるもの

[†] a041115y@r.hit-u.ac.jp

¹ 検索条件は次の通りである。BCCWJ 短単位検索、キー：語種＝漢、キーから1語：書字形出現形＝な、キーから2語：品詞＝名詞、で検索後、二字のものだけを抽出した。

² 本発表の検索結果は大部分がBCCWJ全体のもので、一部を除き粗頻度で比較する。

である。表1から、次のことがわかる。

- (5) 漢語ナ形容詞の名詞形は基本的には「さ」だが、「必要、可能、多様、危険」は「性」を基本とする。「重要」は「性」も「さ」も取る。

表1 「な」粗頻度上位20位

順位	語彙素	「な」粗頻度	JLPT	「性」順位	「さ」順位
1	必要	11822	3	2	302
2	重要	10153	2	4	17
3	可能	4076	2	1	340
4	大切	3570	4	—	1
5	適切	3472	2	446	82
6	大変	3464	4	—	10
7	奇麗	3091	4	—	24
8	有名	3022	4	1181	455
9	十分	2980	3	549	39
10	大事	2800	3	—	61
11	巨大	2766	2	—	39
12	簡単	2557	3	—	99
13	立派	2469	4	—	156
14	多様	2320	1	10	57
15	特別	2270	3	—	391
16	複雑	2086	3	106	3
17	重大	2056	2	156	13
18	貴重	1970	2	1042	200
19	危険	1815	3	6	182
20	自由	1776	3	530	18

2.2 「の」：連体修飾の基本形

2.1 ではナ形容詞による連体修飾を見たが、名詞の場合は「の」になる。表2は「の+名詞」に前接する位置で使われる名詞の上位20位を見たものだが³、表中の名詞は装定で使われやすい名詞ということになる。ここに現れる語は、人を表す語（自分、人間、女性、自身）、組織を表す語（会社、企業、学校）、時間を表す語（時代、現在、当時）、場所を表す語（世界、社会、地域）、順序・範囲を表す語（最初、最後、以上、以外）、副詞的な語（程度）のように、指示性(referentiality)が低く、機能語的に振る舞うものが多いと言えそうである。

表2 「の」粗頻度上位20位

順位	語彙素	JLPT	粗頻度	調整頻度 ⁴
1	自分	4	18202	54606
2	以上	3	5218	15654
3	人間	2	4217	12651
4	以外	3	3451	10353
5	時代	3	3425	10275
6	会社	4	3392	10176

³ 検索条件は次の通りである。BCCWJ 短単位検索、キー：語種=漢、キーから1語：書字形出現形=の、キーから2語：品詞=名詞、で検索後、二字のものだけを抽出した。

⁴ 「の」については、BCCWJ 全体を検索対象としたときの頻度を調整頻度として示す。

7	最初	3	2952	8856
8	現在	2	2841	8523
9	企業	2	2807	8421
10	地域	2	2684	8052
11	最後	3	2657	7971
12	世界	3	2656	7968
13	普通	3	2569	7707
14	学校	4	2539	7617
15	女性	3	2529	7587
16	社会	3	2425	7275
17	生活	3	2344	7032
18	当時	2	2234	6702
19	程度	2	2153	6459
20	自身	2	2150	6450

3. 「的」：形容詞的名詞

学習者にとって、漢語の連体修飾で難しいのは「的」を必要とするかである。これは、特に中国語話者において顕著である（庵 2015）。

3.1 全体的分布

まず、全体的分布は次の通りである⁵。赤字は粗頻度が 100 以上のものだが、「さ」についてはそれに当たる語は存在しなかった。これは、「～性」は「…であること」（e.g. 必要性、多様性）および「～的であること」（e.g. 具体性、経済性）を表すのに対し、「…さ」は「…であること」（e.g. 大切さ、貴重さ）しか表せないためである。

表 3 「的」全体粗頻度上位 20 位

順位	語彙素	JLPT	粗頻度	「性」順位	「さ」順位
1	具体	2	10550	96	—
2	基本	2	9965	1727	—
3	積極	2	7583	94	243
4	一般	2	6394	233	—
5	社会	3	5987	22	—
6	比較	2	4137	1727	—
7	経済	3	4043	31	—
8	個人	2	3416	386	—
9	総合	1	3358	217	—
10	効果	2	3297	655	—
11	政治	3	3275	219	—
12	精神	2	3239	73	564
13	最終	2	2979	—	—
14	国際	3	2885	141	—
15	歴史	3	2824	172	—

⁵ 検索条件は次の通りである。BCCWJ 短単位検索、キー：語種＝漢、キーから 1 語：語彙素＝的、キーから 2 語：語彙素＝だ&活用形＝連体形、キーから 3 語：品詞＝名詞（「的」の場合）、で検索後、二字のものだけを抽出した。

16	本格	1	2586	—	455
17	伝統	2	2271	655	—
18	効率	1	2019	23	—
19	圧倒	1	2000	1727	—
20	世界	3	1968	412	—

3.2 独立形態素か否か

「的」に関して注意を要する点に、独立形態素として使えるかということがある。

- (6) a. この問題は政治 (* ϕ /的) だ。⁶
 b. 彼が興味を持っているのは政治だ。
 c. 政治は難しい。
- (7) a. この問題は国際 (* ϕ /的) だ。
 b. *彼が興味を持っているのは国際だ。
 c. *国際は難しい。

例えば、「政治」は述語位置で「的」を必要とする場合があるが、(6b)のように「的」をともなわずに述語になったり(6c)のように助詞の前に来たりすることができる。一方、「国際」は(6b)(6c)に対応する用法を持たない。これは、「国際」が独立形態素として使えず(つまり、「語」として使えず)、形態素としてしか使えないことを示している。これは特に、中国語と比較したときに注意を要する点である。

この点を明らかにするために、「的」全体の分布に、その語彙が「助詞(格助詞、係助詞、副助詞)」と共起するかを加えたものを表4として示す。ここで、赤字は「名詞」の用例がないか(「—」)、その粗頻度が5以下のものである。この値が低くても「サ変動詞の語幹」である可能性は残るが、「サ変動詞の語幹」でもない場合は自立語としての用法を持たないと結論することができる。

表4 「的」全体粗頻度上位20位(2)

順位	「的」全体	JLPT	粗頻度	名詞順位
1	具体	2	10550	—
2	基本	2	9965	542
3	積極	2	7583	4991
4	一般	2	6394	212
5	社会	3	5987	18
6	比較	2	4137	1129
7	経済	3	4043	87
8	個人	2	3416	360
9	総合	1	3358	1861
10	効果	2	3297	60
11	政治	3	3275	384
12	精神	2	3239	601
13	最終	2	2979	3840
14	国際	3	2885	2327
15	歴史	3	2824	216
16	本格	1	2586	—
17	伝統	2	2271	575

⁶ 「 ϕ 」はそこに音形を持つ要素が存在しないことを表す。

18	効率	1	2019	1369
19	圧倒	1	2000	—
20	世界	3	1968	34

3.3 統語的位置による違い

今回の調査で興味深い現象が見つかった。それは、統語的位置によって「～的」の現れやすさが異なるということである。本小節のみ、連体修飾以外についても考察する。

本発表では、「的」が現れる統語的環境として、次の5つを考えた。

1) 「的な」＋名詞

「経済的な問題」のように、「～的な」の形で連体修飾を行う場合

2) 「的」＋名詞

「政治的解決」のように、「～的」の形で連体修飾を行う場合で、複合語に近い

3) 「的に」

「本格的に取り組む」のように、「～的に」の形で連用修飾を行う場合

4) 「的」＋形容詞

「比較的単純な」のように、「～的」に形で連用修飾を行う場合

5) 「的だ」（「だ」は「だ、です、である」の終止用法の総計）

「～は効果的だ。」のように、「～的だ」の形で文終止を行う場合。

このうち、1)と2)、3)と4)は統語的機能が近いと考えられる。これらの分布をまとめると次のようになる。

まず、1) 2)と全体の分布と比べると、表5になる。これを見ると、1)の分布の方が「的」全体の分布に近い。これは、2)の複合語的な用法の方が専門用語的であり、そのため分布が全体のものとずれているということかもしれない。今後、レンジスターの違いなどを含めた考察が必要である。

表5 「的」全体と「的」による連体修飾・粗頻度上位20位

「的」全体順位	「的」全体	粗頻度	「的な＋名詞」	粗頻度	「的＋名詞」	粗頻度
1	具体	10550	具体	3956	社会	3721
2	基本	9965	基本	2927	経済	1869
3	積極	7583	一般	1801	政治	1792
4	一般	6394	積極	1673	歴史	1521
5	社会	5987	総合	1376	基本	1499
6	比較	4137	代表	1366	比較	1375
7	経済	4043	本格	1308	具体	1106
8	個人	3416	国際	1274	精神	947
9	総合	3358	伝統	1237	主義	829

10	効果	3297	個人	1085	科学	789
11	政治	3275	効果	1041	国際	735
12	精神	3239	精神	928	技術	718
13	最終	2979	社会	894	文化	650
14	国際	2885	典型	892	宗教	573
15	歴史	2824	決定	791	伝統	572
16	本格	2586	効率	749	心理	571
17	伝統	2271	合理	732	個人	529
18	効率	2019	経済	721	積極	462
19	圧倒	2000	世界	710	総合	446
20	世界	1968	主義	649	軍事	420

次に、3) 4) と全体の分布を比較すると、表 6 のようになる。3) と全体の対応関係は強いが、「徹底、自動、一方、定期、全体」のように、連用修飾で使われることが多い語もあるようである。それよりも顕著なのは、4) であり、この用法はほとんど (8) のような「比較的」に限られると言ってもよさそうである。

(8) 鹿児島県の石造アーチ橋は、その架橋が他の地方にくらべ比較的遅い方である。
(LBb2_00018)

表 6 「的」全体と「的」による連用修飾・粗頻度上位 20 位

「的」全体順位	「的」全体	粗頻度	「的に+用言」	粗頻度	「的に+用言」	粗頻度
1	具体	10550	積極	1757	比較	2191
2	基本	9965	具体	1222	可及	33
3	積極	7583	一般	686	経済	26
4	一般	6394	圧倒	623	行為	22
5	社会	5987	徹底	574	戦略	18
6	比較	4137	基本	430	文化	18
7	経済	4043	相対	385	潜在	16
8	個人	3416	世界	354	社会	14
9	総合	3358	精神	331	政治	14
10	効果	3297	客観	324	圧倒	12
11	政治	3275	自動	321	技術	11
12	精神	3239	効果	314	条件	11
13	最終	2979	本格	298	相対	11
14	国際	2885	一方	291	主義	10
15	歴史	2824	総合	290	精神	10
16	本格	2586	定期	282	地域	10

17	伝統	2271	個人	261	人間	9
18	効率	2019	決定	257	歴史	8
19	圧倒	2000	全国	257	形式	7
20	世界	1968	全体	257	絶対	7

最後に、5)と全体の分布を比較すると、表7のようになる。これを見ると、5)も4)ほどではないものの特定の語への集中度が高い。こうした情報は読解の指導や「文型」の考察においてヒントになり得るように思われる。

表7 「的」全体と「的」の終止用法・粗頻度上位20位

「的」全体順位	「的」全体	粗頻度	「的だ。」	粗頻度
1	具体	10550	効果	459
2	基本	9965	一般	389
3	積極	7583	特徴	118
4	一般	6394	魅力	110
5	社会	5987	対照	109
6	比較	4137	印象	108
7	経済	4043	理想	69
8	個人	3416	現実	52
9	総合	3358	合理	47
10	効果	3297	効率	37
11	政治	3275	象徴	30
12	精神	3239	示唆	29
13	最終	2979	積極	28
14	国際	2885	代表	28
15	歴史	2824	感動	27
16	本格	2586	経済	27
17	伝統	2271	批判	23
18	効率	2019	消極	22
19	圧倒	2000	否定	22
20	世界	1968	圧倒	21

4. サ変動詞

漢語の連体修飾において、もう1つ重要なのはサ変動詞である。ここでは、「する」「した」「している」「していた」の形がそれぞれ連体修飾で使われた場合の分布を見る。

4.1 全体的分布

まず、全体的分布を見る⁷。

表 8 「サ変」全体粗頻度上位 20 位

順位	「サ変」全体 (コア)	粗頻度	調整頻度 ⁸
1	実施	359	2919.5
2	推進	257	2090.0
3	利用	195	1585.8
4	発表	147	1195.4
5	対応	132	1073.5
6	説明	124	1008.4
7	使用	122	992.1
8	開催	120	975.9
9	活用	119	967.7
10	提供	118	959.6
11	確認	114	927.1
11	紹介	114	927.1
13	参加	112	910.8
14	設置	111	902.7
15	発生	108	878.3
16	期待	107	870.2
16	結婚	107	870.2
18	増加	105	853.9
19	支援	103	837.6
20	検討	98	797.0
20	指摘	98	797.0

⁷ 検索条件は次の通りである。BCCWJ 短単位検索、キー：語種=漢、キーから 1 語：語彙素=為る&活用形=連体形、キーから 2 語：品詞=名詞（「漢語+する」の場合）、キー：語種=漢、キーから 1 語：語彙素=為る、キーから 2 語：語彙素=た&活用形=連体形、キーから 3 語：品詞=名詞（「漢語+した」の場合）、キー：語種=漢、キーから 1 語：語彙素=為る、キーから 2 語：語彙素=て、キーから 3 語：語彙素=居る&活用形=連体形、キーから 4 語：品詞=名詞（「漢語+している」の場合）、キー：語種=漢、キーから 1 語：語彙素=為る、キーから 2 語：語彙素=て、キーから 3 語：語彙素=居る、キーから 4 語：語彙素=た&活用形=連体形、キーから 5 語：品詞=名詞（「漢語+していた」の場合）、で検索後、二字のものだけを抽出した。

⁸ サ変動詞になり得る語の用例数は多いため、コアデータで検索し、それを BCCWJ 全体で検索した場合の用例数を調整頻度とした。

4.2 テンス・アスペクト形式ごとの分布

次に、テンス・アスペクト形式ごとの分布を見る⁹。

表9 「サ変」全体と各テンス・アスペクト形式粗頻度上位20位

サ変 全体 順位	サ変 全体	粗頻 度(コ ア)	調整頻 度	サ変 +す る	粗頻 度	サ変 +し た	粗頻 度	サ変+ してい る	粗頻 度	サ変+ してい た	粗頻 度
1	実施	359	2919.5	存在	546	独立	291	存在	100	存在	61
2	推進	257	2090.0	利用	508	発生	287	使用	79	支配	42
3	利用	195	1585.8	理解	417	利用	260	生活	58	所属	34
4	発表	147	1195.4	使用	411	安定	246	理解	53	生活	34
5	対応	132	1073.5	意味	334	成功	218	構成	50	所有	33
6	説明	124	1008.4	対応	322	紹介	206	支配	49	予定	33
7	使用	122	992.1	説明	318	徹底	197	所有	49	期待	32
8	開催	120	975.9	表現	311	成立	188	不足	49	滞在	32
9	活用	119	967.7	実現	303	参加	187	直面	47	予想	31
10	提供	118	959.6	主張	295	発見	184	活動	46	用意	31
11	確認	114	927.1	提供	290	経験	182	集中	45	担当	30
11	紹介	114	927.1	登場	289	結婚	165	進行	45	勤務	27
13	参加	112	910.8	代表	285	登場	161	利用	45	使用	26
14	設置	111	902.7	維持	278	発達	160	担当	44	心配	26
15	発生	108	878.3	発生	278	完成	154	参加	43	想像	24
16	期待	107	870.2	参加	272	充実	146	実施	42	活躍	23
16	結婚	107	870.2	確認	269	取得	142	関係	41	居住	23
18	増加	105	853.9	否定	262	発表	141	活躍	40	覚悟	20
19	支援	103	837.6	構成	233	作成	140	研究	36	信頼	19
20	検討	98	797.0	位置	227	死亡	137	入院	36	活動	18
20	指摘	98	797.0			失敗	137			入院	18

テンス・アスペクト形式は連体修飾位置では(9)に見られるように、文末と異なる振る舞いをする(庵・清水2016)。

(9) a. きれいな服を着た女性

b. あの女性はきれいな服を(*着た・着ている)。

特に、「～した」のテンスを持つか否かという観点からの考察が重要になる(Cf. 金水1994)。

⁹ 表9のデータのうち、「全体」の検索対象は「コア」だが、それ以外は全て検索対象はBCCWJ全体であり、その他の多くと同じく、粗頻度で比較する。

5. おわりに

本発表では、二字漢語による連体修飾表現に関わる諸現象を取り上げた。今回は時間の関係で詳細に踏み込めていないものもあり、今後さらなる考察が必要となる。

謝 辞

本研究は、国立国語研究所共同利用型共同研究（C）「BCCWJ を用いた日本語統語情報・名詞コロケーション辞書作成のための基礎的研究」の成果の一部である。

文 献

庵功雄（2015）「中国語話者の母語の知識は日本語学習にどの程度役立つか—「的」を例に一」『漢日語言対比研究論叢』6、165-173

庵功雄・清水佳子（2016）『上級日本語文法演習 時間を表す表現—テンス・アスペクト』スリーエーネットワーク

金水敏（1994）「連体修飾の「～タ」について」田窪行則編『日本語の名詞修飾表現』29-65、くろしお出版

関連 URL

コーパス検索アプリケーション『中納言』

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>